1. 都島区まちづくりビジョン2040とは

◆目的と位置づけ

都島区では、区政全般を対象とする、計画期間５年の「都島区将来ビジョン2025」のもと、取組を進めています。

区民の満足度・幸福感の向上につながる都市の発展をめざすため、今後到来するまちの長期的な変化に対応し、より戦略的に、新たな都市のイメージやまちの魅力の創出、育成、醸成等につながる施策・事業に多面的に取り組み、長期的な視点での区の将来像を示すものです。

◆対象区域　都島区全域

◆目標年次　2040年（概ね15年の長期的な見通し）

2. 上位・関連計画

◆Beyond EXPO 2025
新技術やイノベーションの実装
みどり豊かな都市空間の創出と人中心のまちづくり

◆大阪のまちづくりグランドデザイン
京橋を含む「大阪城・周辺エリア」は拠点の一つに位置付け（国際観光拠点）
目標：未来社会を支え、新たな価値を創造し続ける、人中心のまちづくり
将来像：イノベーティブな大阪
ウェルビーイングな大阪
サスティナブルな大阪

◆大阪城公園周辺地域まちづくり方針
「大阪京橋駅周辺」が対象地域に含まれる
目標1:インバウンドを含めた観光客を呼び込む「国際観光拠点の強化」
目標2: ICTを軸にした「国際的なイノベーション拠点の形成や国際人材の受入環境の整備」
目標3:「人・モノ・情報の交流の促進」

◆新・大阪市緑の基本計画
大川・中之島エリアをみどりの骨格を形成するエリアとして位置付け

3. 社会動向

まちのあり方や新たな技術など社会の動向と変化を踏まえたまちづくりが必要

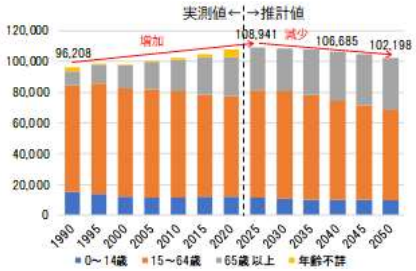
＜キーワード＞

持続可能性	DX、GX
脱炭素化	ウォーカブル
生活の質の向上	車中心から人中心へ
ダイバーシティ	Well-Being
社会的包摂	など

4. 都島区の現状と課題

	強み（Strength）	弱み（Weaknesses）
内部	○都心に近くて交通利便性が高く、徒歩圏で生活利便施設等が揃う暮らしやすさ ○三方を川に囲まれた、水と緑が豊かな環境、水都大阪（舟運活性化） ○水・緑・桜、旧街道、商店街、美術館、社寺・史跡などの魅力資源が豊富 ○京橋駅は大阪のヒガシの玄関口で1日に50万人の乗降あり。周辺は商業・業務が集積。繁華街もあり、住宅も混在 ○北部、中部、南部で違った特性のまちを形成	○2030年以降、人口は減少（2040年までに2%減少） ○町会加入率は34.5%と市平均の46.4%より10ポイント以上低い ○北部地域の人口減少、65歳以上の割合増 ○区の魅力があまり認識されていない ○京橋のイメージの固定化 ○一部に市指定の密集市街地あり
外部	○区の拠点である京橋駅周辺が今後大きく変化（複数の長期開発事業実施予定） ○京橋のまちづくりの動き（大阪城公園周辺地域まちづくり方針） ○クイントブリッジ、大阪公立大学 ○大阪・関西万博の開催 ○インバウンドの増加 ○強力な国際観光拠点（大阪城）	○地震や水害などの自然災害 ○他地域の魅力との競争激化（負けると人口流出加速）
	機会（Opportunities）	脅威（Threats）

【都島区の推計人口（人）】



【地域別人口（人）】

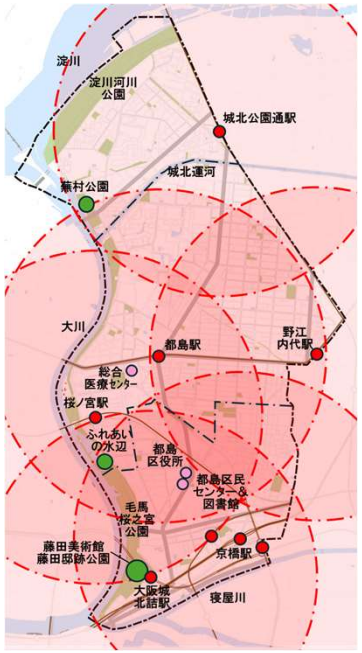
	平成22年（2010）	令和2年（2020）	増減
北部地域	16,463	15,389	-1,074
中部地域	61,785	65,831	4,046
南部地域	24,384	26,684	2,300
区全体	102,632	107,904	5,272

【町会加入率】

	都島区	大阪市平均
平成31年（2019）	41.4%	55.1%
令和2年（2020）	41.2%	54.3%
令和3年（2021）	35.5%	48.5%
令和5年（2023）	34.5%	46.4%

大阪市地域振興会組織現況調査結果

＝区内各駅から15分圏のイメージ＝



区内鉄道駅を中心に半径1200m（徒歩1分80mで15分圏）の円を描くと区内居住地全域がカバーされる。

5. めざすまちづくりの方向性

【将来に向けたまちづくりの戦略】「弱み」「脅威」を、「強み」「機会」で解消

◆区内のエリア特性を活かした暮らしの魅力の形成と発信

◆区の魅力資源等の再認識と発信・活用

◆今後、開発による変容が期待できる「大阪のヒガシの玄関口」京橋駅周辺の活性化と魅力向上

⇒ 人口減少や少子高齢化の更なる進展による地域コミュニティの弱体化を抑止

【まちづくりの方向性】「強み」「機会」を活かす

◆歩いて暮らせる（15分都市）、歩きたくなるまち
徒歩圏で基本的な生活ができる、コンパクトなウォーカブルシティ

◆水とみどりの豊かさを実感するまち
大川・淀川などの豊かな水・みどりのネットワークを形成するとともに利活用による魅力向上

◆拠点・シンボルとなる魅力的な京橋の形成
賑わい、憩い、交流を意識したウォーカブルな空間づくりによる新たな魅力創出

◆区民が愛着・誇りを持つまち
区の魅力を再認識し、暮らしに活かすことで愛着・誇りを醸成

◆「つながり」が生まれるまち
人・団体・企業などがつながることで、子育て、福祉・介護、防災等の共助が強まり安心の街へ

ずっと　もっと　都島

各エリアの特性を可視化し、まちの資源の魅力をひとりひとりが享受し、もっと都島を好きになり、ライフスタイルに応じて一生豊かに暮らし続けることができる都島をめざします。

交通の要衝として発展してきた経緯や現状を受け継ぎ、ひと・まち（場所）・情報などのさまざまな要素がもっと「つながる」ことで、発展し続ける都島をめざします。

人のつながりを大切にし、近都心としての都市的な住む・働く・訪れる環境を充実させつつ、大川・淀川などの自然やゆとりある環境との調和が取れた、安心して暮らし続けられる、何度も訪れたくなる魅力ある都島をめざします。

6. エリア戦略（めざす将来像）

北部地域『豊かな自然とゆとりの空間』

＜北部地域の特徴＞
- ○淀川を含め自然が豊かで公園が多い。
- ○人口密度が他地域より低い。
- ○戸建て割合が高い。
- ○人口は減少傾向、高齢世帯の割合が高い。

＜北部地域の将来像＞

大川に加え、淀川の自然を享受し、他地域よりもゆとりある暮らしを実現する地域を維持・形成

- ◆スポーツ・健康づくり・デイキャンプなど、近都心でありながら、豊かな自然と共存し、健康的に暮らせる地域
- ◆ゆとりを感じ、落ち着いた静かな環境で住む・働く（リモートワーク等）など、郊外的な暮らしを楽しむことができる地域
- ◆当地域の特性を発信し、その特性を好む新たな層の居住を区内外から呼び込み、コミュニティの力を維持・発展させていく

淀川河川公園

中部地域『自然と都市の程よい調和』

＜中部地域の特徴＞
- ○各種生活利便施設が充実
  （特に子育て・福祉・高度医療は区内で最も充実）
- ○共同住宅の割合が高く、持ち家率も高い。
- ○大規模共同住宅群の緑が多い。
- ○都島駅を中心に幹線道路沿道に商業施設が多く立地

＜中部地域の将来像＞

都市的な利便性と、大川や街のみどりを中心としたさまざまな魅力を享受し、都市的かつ住環境が整った豊かな暮らしを実現する地域を維持・形成

- ◆各種生活利便施設が充実し、都会的なまちなみの住宅地でありながら、大川や大規模な共同住宅群の緑が多い住環境の中で、豊かな暮らしを実現できる地域
- ◆西側には共同住宅群、東側には一戸建てが多いエリアがあり、それぞれの志向に合わせた居住の選択が可能な地域
- ◆公園が多く地域内に点在し、関連施設等の立地も含めて子育て環境が整っており、子どもが多く活気がある地域

大阪ふれあいの水辺
（桜ノ宮ビーチ）

南部地域『交流と活気あふれる複合拠点』

＜南部地域の特徴＞
- ○商業・業務機能が集積、多くの人が訪れる。
- ○各種生活利便施設が充実
- ○約7割が単身世帯で共同住宅が非常に多く、持ち家率は非常に低い。

＜南部地域の将来像＞

京橋駅周辺を中心として、商業・業務・観光等の機能の集積に加え、シンボル空間や新たな憩い・賑わい空間の創出により、交流が生まれる拠点としての更なる魅力エリアを形成

- ◆京橋駅周辺は、世界や関西広域拠点を大阪でつなぐヒガシの玄関口として、Connective City京橋として、「国際的な集客・滞在・商業空間」、「賑わい拠点」が形成される地域
- ◆ビジネス・イノベーションの創出を図り「スタートアップ・ベンチャーエリア」が形成される地域
- ◆駅とまちを一体化する「人中心の駅前空間・拠点」や、大阪城公園、OBPから京橋駅周辺をつなぐ「新たな歩行者ネットワーク」が形成され、ウォーカブルな空間が充実する地域
- ◆職住近接や通勤・通学の利便性と、繁華街の賑わいや刺激を楽しむなど、若者を中心に都心的な暮らしが実現できる地域
- ◆大川や藤田美術館などの地域資源、京橋駅周辺の飲食・遊興機能の集積などにより、インバウンドを含む観光客や来街者で賑わう地域

藤田邸跡公園

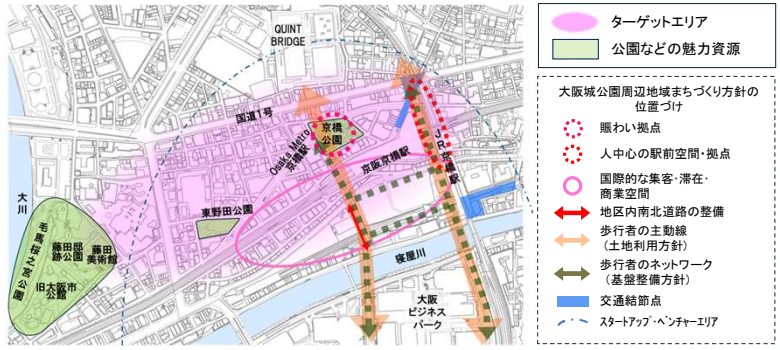
コムズガーデン（京橋公園）
のリニューアルイメージ

＜ターゲットエリアの設定＞

区のシンボル的なエリアとして、京橋公園を中心とするエリアをターゲットエリアとして設定する。

京橋駅南側からの歩行者ネットワークを区内に広げ、つなげていくためには、京橋公園を中心に賑わいを創出するとともに、人中心のウォーカブルな空間のネットワークの構築や、滞留空間の創出による回遊性の向上を図る必要がある。特にQUINT BRIDGEがある北側や藤田美術館などの地域資源がある西側への人の流れを促進するための取組を行う。

【ターゲットエリアのイメージ】



7. まちづくりのロードマップ

※関連計画の改定や社会情勢の変化などを考慮し、必要に応じて適宜見直しを行う

				短期		中期	長期
年度		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9～12年度	令和13～17年度	令和18～22年度
都島区まちづくりビジョン		骨子作成	ビジョン策定	具体的取組試行	具体的取組実施		
地域まちづくり	京橋エリア	ターゲットエリア設定	実地調査実施	社会実験実施	具体的取組実施		
				地域連携強化（エリマネ実現に向けて）		具体的取組実施	
	北部エリア	都島MeetsNATURE試行実施		具体的取組試行	具体的取組実施		

8. ≪ビジョン≫と≪アクション≫の関係と、計画の構成

都島区の将来像≪ビジョン≫

北部地域
『豊かな自然とゆとりの空間』

中部地域
『自然と都市の程よい調和』

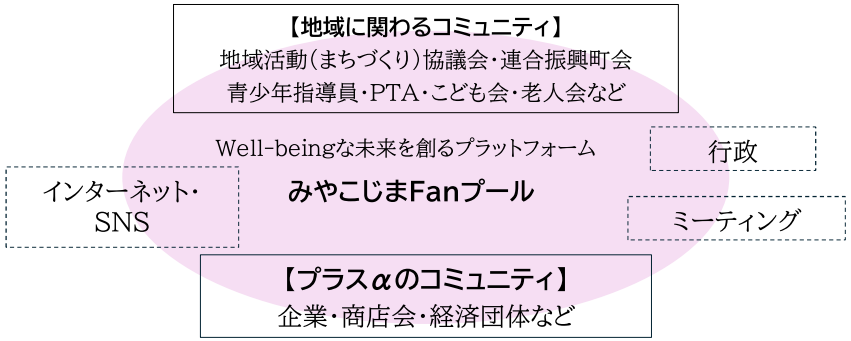
南部地域
『交流と活気あふれる複合拠点』

将来像達成に向けた取組方針

① 地域資源の活用
② 魅力向上と発信強化
③ 「ずっと」「もっと」暮らしたいまちをみんなでつくる

取組の方向

① プラットフォームの構築
② 中間支援組織活用の検討
③ 地域活動の自主性や継続性を担保する地域経営取組の検討〔財源〕
④ 取組のキーとなる団体等〔人材〕



≪アクション≫

リーディングプロジェクト
・【北部】都島Meets Nature
・【南部】京橋公園活性化調査

実施中の取組
・【南部】都島区民まつり
・【中部】桜ノ宮ビーチフェスティバル（実行委員会形式）
・クリスマスmamaコムマルシェ（後援）
・京橋オススメ体験（商工会議所）

その他の新たな取組
・MIYAKOJIMA ひと×まち File
・みやこじま未来会議
・都島チャンネル文化フェス（後援）